

令和5年9月吉日

保護者のみなさまへ

河内長野市立美加の台中学校  
校長 浦尾 和久

## 「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果について

### 《基本的な考え方》

本調査については、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」と文部科学省の目的にあります。これらをふまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

- 子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ることによって、学習意欲を高め、自ら目標を持って今後の学習の改善や励みになる。
- 学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。

### 《調査結果の取り扱い》

今年度も全国学力・学習状況調査の結果と分析を提供いたします。

- ◇本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。
- ◇学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

### 《お願い》

- 学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちやきょうだいと比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてください。その上で、課題について頑張って克服できるよう励ましてあげてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。
- 学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にしていただきますようよろしくお願いいたします。
- 調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないよう、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。

学力調査の概要

国語

概要

無解答が皆無で、努力の跡が見られる。選択式の正答率が若干低めであったが、短答・記述式の正答率が高く、全体的に、大阪府・全国の正答率を上回る成果であった。

特に成果が見られた問題例

文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかを見る問題、及び、古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかを見る問題。普段から、授業で「自分の考え」を書く機会を多く持っていることが功を奏した。

特に課題が見られた問題例

意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかを見る問題、及び、文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかを見る問題。普段の小テストで漢字に触れる機会が多いものの、「場当たりの暗記」にとどまっている現状を改める必要がある。

数学

概要

全体の平均正答率が大阪府や全国平均と比べて、同程度である。どの問題も全体的に無解答率が極めて低く、問題に積極的に取り組むことができている。また、毎年高くなりがちな記述式の問題の無解答率も全国や大阪平均と比べても極めて低い。また、記述問題の正答率は、全国や大阪府平均を上回っている。

特に成果が見られた問題例

2、6(1)(2)(3)などの“A:数と式”の分野と3、9(2)などの“B:図形”の分野を全国や大阪平均と比べても正確に解くことができている。普段からの演習プリントや小テスト、再テストをしっかりと行うことで少しずつ身につけてきている。6(3)や9(2)のような無解答率の高い問題の無回答率も低く、正答率も全国や大阪府と比べて高い。また、応用力の問われる思考判断表現の問題も全国や大阪府の平均より高い。

特に課題が見られた問題例

成果が見られた“数と式”“図形”に比べて、全国や大阪府の平均と比べても課題だったのは、4、5、7、8などの“C:関数”“D:データの活用”の二つの分野である。特に1・2年の関数の分野と2年生の箱ひげ図の分野をしっかりと復習する必要がある。応用問題に取り組めるよう、この分野の知識技能を身につけていく必要がある。

概要

全体的に見ると正答率が大阪府・全国平均を上回る結果となっている。観点別でも「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに大阪府・全国平均を上回る結果となった。また無回答率がほとんどの問題においてゼロであり、記述式の問題においても自分の考えを伝えようという姿勢が見られた。

特に成果が見られた問題例

「書くこと」の領域の問題において、正答率が全国平均を大きく上回っていた。英語の学習に対する関心も高い。授業で英語でのやりとりや発表、ならびに聞いたり読んだりしたことや自分の考えを英語で書いたり話したりする総合的な言語活動を行っている成果といえる。語句を単に暗記するだけでなく、自分の意見を伝える手段として適切に使用することができていた。また、「話すこと」の領域は「やり取り」「発表」のどちらにおいても全国平均を大きく上回っていた。

特に課題が見られた問題例

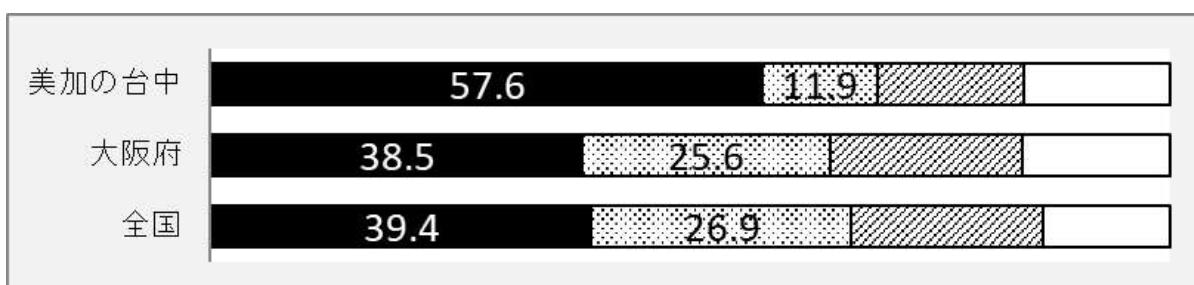
「読むこと」の領域の問題において、正答率が全国平均をわずかに下回っていた。7の問題において、文脈に応じて適切な表現を選ぶ問題に課題が見られた。語句を暗記するだけでなく、まとまりのある文章の文脈を正しく理解し、適切に使用する力をつけていく必要がある。

学習状況調査概要 生徒質問用紙からみた 学習・生活状況について

◆成果が見られた項目

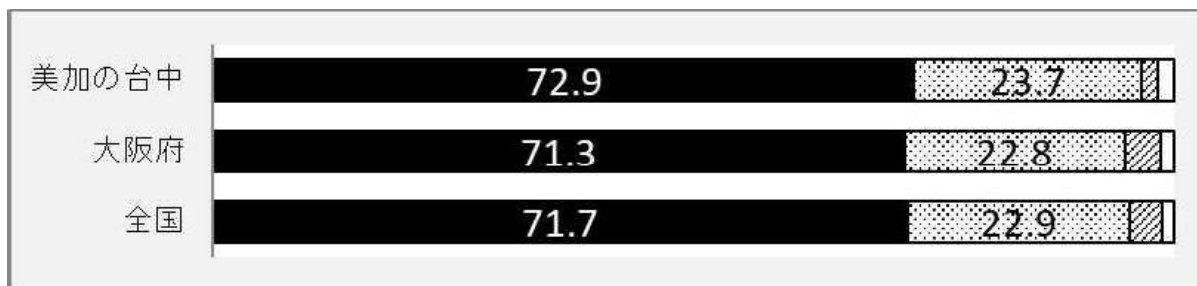
グラフは左から[当てはまる/どちらかと言えば、当てはまる/どちらかと言えば、当てはまらない/当てはまらない]または[そう思う/どちらかと言えば、そう思う/どちらかと言えば、そう思わない/そう思わない]の順に表しています。

(7) 将来の夢や目標を持っていますか。



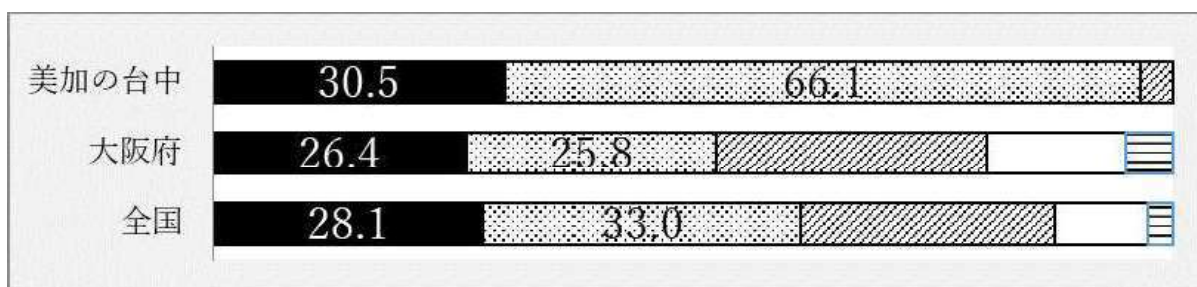
肯定的な回答(「当てはまる」及び「やや当てはまる」)の割合は全国平均並み、本校の例年並みではあるものの、その中で「あてはまる」と積極的な肯定をした生徒の割合(57.6%)が全国平均(38.5%)や本校の例年(R4・33.3%)を大きく上回っている。将来の夢や目標を持っている生徒が多いと言えます。中学校でのキャリア教育や家庭での話し合いなどをうけて、目の前の「高校受験」ととどまらず、先の生活のことを積極的に考えていることがうかがえます。

(11)人の役にたつ人間になりたいと思いますか。

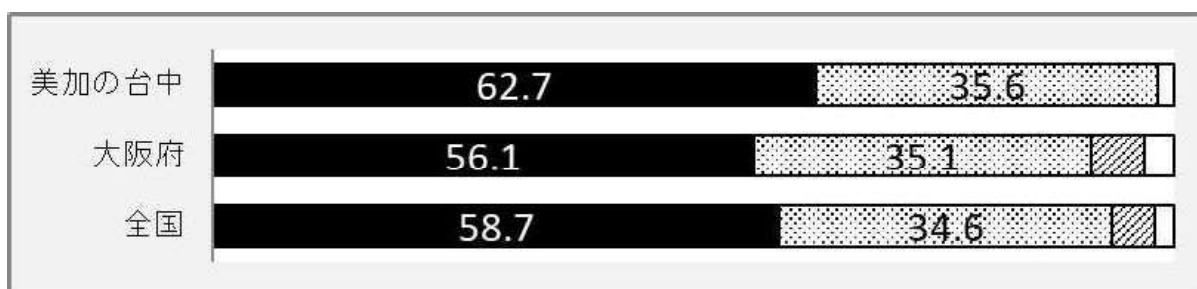


この質問については全国的にも肯定的な回答の割合が高いものではありますが、「将来の夢や目標を持っている」という回答と合わせて、生徒たちの姿勢がたのもしく思われます。

(33)授業でのタブレットなどのICT機器の使用頻度が高い。



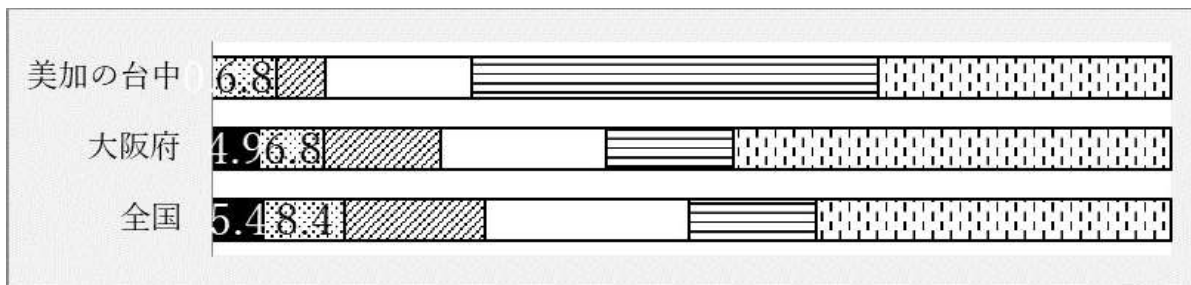
(34)生徒たちはPC・タブレットが勉強の役に立つと考えている。



主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行っている中で、ICT機器の活用がその手助けとなっています。国のクロス集計では、この視点から授業改善を行っている学校ほどICT機器を活用している傾向が見られ、平均正答率が高いとの結果が出ています。国語・数学・英語すべての教科のテストで無回答率が非常に低く、短答式・記述式の問題にも最後まで解答する粘り強い姿勢がうかがえます。また、生徒たちも「最後まで書こうと努力した」と回答しています。学習に苦手意識を持つ生徒もよく努力していました。

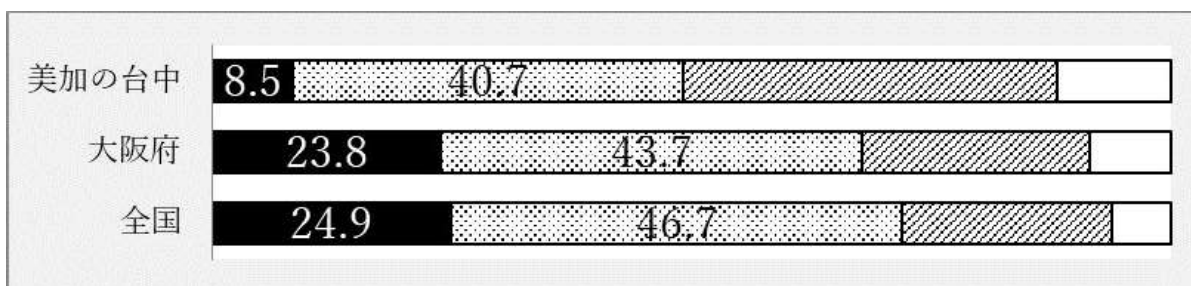
◆課題が見られた項目

(20)学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、読書をしていますか。  
(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



読書時間は府や全国より下回っています。一方で、「全くしない」という生徒は府・国の平均や本校の例年よりも少ないことから、本に触れる機会は少なくはないようです。(17)家庭での学習時間(学習塾や家庭教師に教わる時間も含む)が半数の生徒が2時間以上と国・府の平均を大きく上回っており、読書にさける時間が少ないと考えられます。

(45)学級での話し合いを生かして自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。



肯定的に回答した生徒が残念ながら少なく、国や府の平均を大きく下回りました。しかし、3年生になってからは、修学旅行や体育大会、文化発表会など、学級で話し合っものごとを進めていく機会が1・2年時よりも飛躍的に増えています。生徒たちがそれぞれ考え、意見を交わしている場面も増えています。

## 【調査結果を受けて】

### ◆本校が重点的に取り組んでいくこと

本校の教育目標である「みんなが輝き、感動を味わえる学校～和（輪）〔つどえ・きたえ・のびよ〕～」を進めていくため、学校行事に向けての取り組みで生徒たちが積極的に考えて活動し、改善点を考え工夫し実現していくという探究的な学びの場面を多く作っています。また、教科の授業でも自分で考えまとめ発表する、他の生徒の考えを聞いて取り入れ、生かすという活動を増やしています。基礎基本の定着はもちろんのこと、その上で、課題の設定を工夫するなど、確かな学力につながるよう生徒たちの支援をしていきます。

### ◆生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

日頃の皆さんの授業のようすや学力・学習状況調査の結果から、苦手なこともあきらめずに取り組めるようになってきたことがうかがえます。また、「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」と回答した人がとても増えていることから、与えられた課題に対してよく努力していることがわかります。このような姿勢は学校での学習にとどまらず、将来の夢や目標の実現につながっていくものです。これからも大切にしていってください。

### ◆保護者のみなさまに協力してほしいこと

今回の調査で初めて、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問が出されました。この質問に肯定的な回答をした割合は87%（よくある49%、ときどきある38%）で、国の・府平均もほぼ同じ（国・府の「よくある」の割合は41%）でした。この数字をどう捉えるかは難しいところです。中学生は、自分を見つめ、自信をつけていくことができる一方で、心が不安定になる時期でもあります。持っている悩みや不安の内容や大きさは生徒たちそれぞれではありますが、学校と保護者のみなさまの間で生徒たちのようすを共有し、生徒たちのよりよい成長につながるよう見守っていただきますようお願いいたします。